

平成30年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第5回)			
日 時	平成30年10月26日(金) 10時00分～11時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (13人)	森会長、村松委員、藤田委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、前田委員、鈴木委員、秋元委員、山形委員、福士委員、一戸委員、青山委員、三上委員	
	事務局 (5人)	企画課長、企画課主幹、企画課総括主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
<b>会 議 概 要</b>			
1 開会			
2 議事			
(1) 経営計画マネジメントシステム評価結果について			
○事務局の説明に対し、委員からの意見等なし。			
(2) 次期弘前市総合計画骨子案について			
○主な意見等の内容は以下のとおり。			
・ 今回の基本構想は2040年頃を見据えつつも、2026年までの構想ということでよいか。また、p12の「目指すまちの姿」に「※各政策分野が縦割りに見えない様に注意する。」とあるが、連携が見える形で整理すると捉えてよいか。前期基本計画は、市長選挙があり市長交代となった場合、内容を途中で見直すこととなるのか。			
⇒連携はこの目指すまちの姿に書いてある内容を実現するための手法であるので、ここでは細かい話ではなくより大きな考え方を記載している。前期基本計画の期間については、現在の市長の任期が2022年4月までであり、もしここで市長交代となった場合、前期基本計画の期間は1年残るが、基本的にはこの計画期間の間は計画を進めていくという前提で策定をしている。			
・ 今後も今年度のような無計画期間が生じるということか。それを回避する方法を検討すべきではないか。			
⇒ 後は市長交代による無計画期間が生じないように、基本構想を市長が代わっても変わらないものになるように策定しており、期間も8年に設定している。それにより、仮に市長交代となった場合も基本構想自体は継続するので、総合計画の基本構想に基づいて市政運営をしていくことが可能である。			

- ・市長が変わっても基本構想は変わらないということは条例等で担保されるのか。  
⇒基本計画は市長の決定事項であるが、基本構想は議会の承認を得るので基本構想だけは残るということである。
- ・今年度は総合計画が議会の承認を得ていないので無計画になったということか。  
⇒今年度策定しようとした新しい経営計画自体が議案にならず、議決をいただけなかったのが、現在総合計画のない空白期間となっているが、今後はそのようなことがないよう、仮に市長が交代になったとしても議決をいただいた基本構想に基づき市政運営をしていくということで整理している。
- ・基本構想は大前提に人口減少問題があり、その問題に対応していく問題対処型の論調となっているが、将来都市像や将来都市像に込めた思いの実現のために何をやっていくか、市民が夢を見れるような、人口減少問題を凌駕するようなものを目指すという文言があった方が市民としては期待を持てるのではないかと。p 12を見ると基本構想が簡素化されていて内容が見えづらいので、キャッチフレーズ等を工夫していただきたい。また、簡素化された基本構想の長期目標の次に当該項目があるのは唐突感がある。  
⇒本計画は問題対処型ではなく、将来こうありたいことに対して今何をやっていくか、というバックキャスト型の考え方で将来都市像を検討してきたので、よりこの考え方が伝わるような作りになるよう検討していきたい。p 12や施策ページの内容については、今回の資料は骨子案であり、今後もっと内容を充実させていくので、中身としては前回と同じくらいの重厚感になる。土地利用の基本方針については、多くの他自治体でも基本構想に含めており、土地利用は非常に重要な部分である、前のページの流れとなじむように調整していきたい。
- ・p 1で「この住みよい「あずましい ふるさと」とあるが、後に出てくる地域経営アンケートでは、住みにくいまちだと思ふ理由について触れているにもかかわらず、弘前が住みよいあずましいふるさとであると既にも書いていることに違和感がある。p 11の「①弘前の風土とあずましい暮らしの継承」についても、市長公約から「暮らし」が出てきていると思うが、表現方法として継承ではなく推進という言葉の方が良いのではないかと。  
⇒表現については全体的に見直していきたい。「暮らし」については、基本構想は市長の公約を入れ込んだものでなく市民の思いを込めた普遍的なものとしている。
- ・従来は「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」という将来都市像であったが、今回の長期目標には、子どもたちが未来に向かって幸せに、という思いが入っていないという印象を受けた。キャッチフレーズは大事な部分であるが、いつまでに決定するのか。また、今回は継続事業と新規事業の区別がつかないので判別できるように、また事業を新設した理由等がわかるような工夫が必要。  
⇒今回は、p 12の「将来都市像に込めた思い」の部分で、子どもたちにも目を向け

た考えを入れていきたい。キャッチフレーズについては、10月20日の市民会議で提案された将来都市像の案を庁内で整理しているのので、次回の審議会で提示させていただきたい。新規事業については、これまでは総合計画を毎年度改訂しており、新規事業も見えるようにしていたが、今回は総合計画で新規事業として見せていくのではなく、基本計画が市長決定事項であることから予算の中で見せていきたいと考えており、4月頃に広報ひろさきなどで周知していくことになる。

- ・基本構想について、今後市の財政規模が縮小していくにつれて、将来都市像の実現が難しくなるため、弘前市まちづくり基本条例を前面に出して、市民の意向を取り入れながら計画を策定していくためのシステムづくりが大事であるので、p11の「②市民の主体性を尊重した協働によるまちづくりの推進」を大きく前面に出して進めてほしい。また、p12の「⑥まちづくりを推進するための仕組み」は、①～⑤と違う性質になるので、他と並列ではなく、p11の②と絡ませ、附属機関からの意見を組み入れて方針を練ってほしい。

⇒p12の⑥は①～⑤の土台になる考えなので並列ではなく、別枠で整理させていただきたい。将来都市像については、市民同士のつながりを強化していかなければならないという意見が、市民会議で多くの幅広い年代の参加者からあった。我々もそのように考えていたため、そのような意見をもとにした将来都市像を提案いただいたことで、市民と共通認識を持つことができた。

- ・p4の「③昭和期のまちづくりの歩み」に、中心商店街の盛り上がりについての内容も追加していただきたい。p8の「産業について」には、表も追加していただくとともに、文章にも数値を入れて、表を見なくても理解できるように丁寧に記載したほうがよい。また、「りんご」と「りんご産業」という言葉が混じっているので整理が必要。「りんご産業」は第6次産業として整理すると、より産業の実態が見えてくるのではないか。

- ・本計画の名称は「経営計画」か？「総合計画」か？

⇒「総合計画」となる。

### 3 閉会